



参画だより

NO. 27

2006. 3. 28

弘前市民参画センター

男女共同参画推進活動講座公開講座「学びを实践に生かすために」
他者の意見を尊重し、
主体的に受け入れていく姿勢が大切

主体的に受け入れていく姿勢が大切

1月28日、市民参画センターにおいて、平成17年度弘前市男女共同参画推進活動講座の受講生による活動報告発表会が開かれ、7名の受講生が活動の成果を発表しました。

本講座は、男女共同参画社会の実現のために地域で活動する実践者を養成する、という目的で弘前市が主催したものです。業務を委託されたNPO法人青森県男女共同参画研究所が企画・運営を担当し、昨年5月の開講から12月までに自主合宿、

熱いエールを受けて
1年間の学びを实践へ



実践につなげるための決意を強くした
受講生とそのスタッフ

中間発表会を含む15回にわたる講座を実施。受講生は男女共同参画の視点からそれぞれが日常生活や仕事のなかで感じている疑問点や課題を浮き彫りにし、それらを解決していくための活動を企画・実践する手法を学びました。

発表会では受講生がひとり5分の持ち時間で、取り組んだテーマや実施した活動の内容、その成果などについて発表しました。講演会の企画や、広報誌による啓発、パパママ教室参加者へのアンケート調査など、受講生が行った多彩な活動の報告に、訪れた人たちは真剣に聞き入っていました。

受講生による発表会に引き続き、弘前大学教育学部教授で、本講座のスーパーバイザーを務めた佐藤三三さんの講演が行われました。「学びを实践に生かすために」と題し、大人にとっての学びがどのような意義を持つべきか、またどうあるべきかということについて、佐藤さんは次のように語りました。



「大人の学びには三段階ある」と話す弘前大学教授 佐藤三三さん

論も、本来は大人がもつとかみしめるべき問題であるようにも思います。

成長するということは、言葉や知識、技術など自分の外側にあるものをひとつひとつ獲得し、取り込んでいくことです。人間は「人間に生まれる」のではなく、「生まれ落ちた瞬間から少しずつ学び続けること」によって、「人間になり続けていく」のです。よりよい人間になつていくためにはすべての人に「学ぶ権利」が必要となります。子どもに何を学ぶべきかを指導し、学習を援助するための存在が教員です。

子どもとちがいで、大人は自分に足りないものを自覚することができ、何をどう学ばよいかを自分で考えることができず。だからといって、大人には他者からの指導がいらないというだけではありません。大人にも他者の意見が必要で、大人はほかの人の意見や助言を自分のなかで受け止めて評価し、取り入れながら自分の学習を進展させます。他者の意見を尊重し、主体的に受け入れていくという

姿勢が大人の学びには大事なことです。大人にとつての学びには、三段階があると思います。まず、本を読んだり人の話を聞いたりして新しい知識を獲得していく段階。新しく得た知識によってものの見方が変わるのが第二段階。そして、自分の態度を変え、そのことにより他者との関係を変えるのが第三段階。第三段階まで進んで自分と他者との関係が変化して初めて、「学んだ」といえるのです。豊かに生きていくための根本は、人と人との関係。ですが今の時代は、その人間関係がいちばん軽視されているときかもしれません。「学びを实践に生かす」とは、人間関係を変え、まえたうえで、改めて「学ぶ」という意味を考えていくことが大事なのではないかと思えます。

平成17年度弘前市男女共同参画推進活動講座の報告書「学びを实践に生かすために」は、弘前市民参画センターで閲覧できます。



「学びや実践の大切さ」を学ぶ参加者

「先輩お母さんが子育て支援」

特定非営利活動法人 弘前こどもコミュニケーション・ピーぷる

自然エネルギーを学びながら
ソーラーカー作り(ひこぴーくらぶ)



子どもを見守り、子どもの育ちを喜びあえる地域社会の構築を目指して、を合言葉に、2005年5月に設立した子育て支援団体です。(同年8月NPO法人取得) 子どもをめぐる心痛む事件が止まない今、子育てを一区切り終えた先輩お母さん達自らの経験の中から、孤独と不安の中での子育て中の若い親達に寄り添い、日常的なつながりを持つことにより、ホッと安心できる「居場所」が必要であるという共通の思いからスタートしました。



かわいいキャラクター「ひこぴー」

いくつかの活動の柱である「居場所づくり」事業として、就園前の子どもと保護者、そしてマタニティママの出会いの広場「チャオチャオ！」と、小学生を対象にした文部科学省委託事業「地域子ども教室「ひこぴーくらぶ」を開催。また、親子で生の舞台を鑑賞し、心のひだに響く感動の共有時間を持つ「ファミリーシアター事業。そして、文化体験事業として、絵本を通じて親子が向き合い豊かな時間を過ごす「絵本からわあ〜い!2005/2006」(青い森フアンド助成事業)等を企画・実施しています。



みんなで楽器づくり(チャオチャオ!)

「ひこぴー」は、私達の団体名を略した愛称で、デザイン会社に勤務する当団体の理事が生みの親です。ひこぴーは子ども達に大人気で、「サンタさんに、ひこぴーのぬいぐるみをお願いしよう」と言った小学生もいたほどです。

立ち上げからまだ一年も経たない中で、実に色々な事業に取り組んできました。「ひこぴー」は、普通の先輩お母さんと地域の大人達の思いで成り立っています。特別な肩書きがある人はいません。そこが最大の魅力であり良さだと思っています。普通だからいい!でも、自分が子育てをしてきたからこそ分かる、若いママの悩みや喜びを充分経験しています。その経験を生かしながら、自分も楽しみ子育て支援に携わる。そして、個々の能力の大きい/小さいではなく、携わる仲間がどのくらいチーム

ワークを含め、お互いを認め不足部分を補えるか...。そういう意味ではメンバーに恵まれ、一つの企画の度毎に、とても綿密な計画を立て打合せをしています。そうすることで、各自の責任感がわいてくるしコミュニケーションも取れます。良い意味で自分をさらけ出し泣ける場面もあります。もちろん笑いも!

の方々に知っていただくのと、3月29日・30日百石町展示館に於いて、「ひこぴーひろば」を開催します。子ども達が遊べるスペースも設けていますので、ぜひ足を運びください。また、5月28日2時から、駅前市民ホールにて、「ファミリーシアター事業」かあさんのおめん」併演「ぱべっと・インソップ」(人形劇団えりっこ)を上演しますので、興味のある方はご連絡ください。



みんなで百石町探検!洋菓子屋にて(ひこぴーくらぶ)

子育てをする立場として、どのような支援をするべきか常に考えます。その「現場の声」を聞くことをとても大切にしていきます。子育てで真ん中の若いパパやママが、こんなことをやりたい!あつたらいいな!という内容を具現化し、親子自らが楽しめるようなサポートをしていくことが今の時代には必要です。その声を届けてくれ、子育てしながらボランティアをした方、そして、子どもの健やかな未来を願いボランティアしてくださる方を大募集しています。

「ひこぴー」が誕生してから約一年の活動を広く地域に広げたい弘前こどもコミュニケーション・ピーぷる
0172340171
開局時間 月火水(10時~15時)
祝日は閉局します

弘前市における男女共同参画施策の中心(センター)として

これから市民とともに

このたびの合併により、当センターにおいても、いくつかの変化がありました。人事異動により工藤主事が転出し、新たに宮本主事が着任しました。前任者に勝るとも劣らない好青年です。また、これまでセンター内に設置されていた企画課男女共同参画室がなくなり、また、これは、新市全体の組織を作る過程で、「室」という名称の使用方を統一したことによるものです。しかしすでにお気づきと思いますが、職員はそのままおります。今後はセンター職員として男女共同参画に関する業務に従事することになります。室名がなくなつても当センターがある限り、男女共同参画への取り組みは確実に継続しますので、ご安心いただきたいと思っております。

男女共同参画室から
弘前市民参画センターへ

弘前市民参画センターが開館してから5年が経過しました。この間、多くの市民の方々に当センターをご利用いただきました。ここに改めてお礼申し上げます。さて、去る2月27日、弘前市、岩木町及び相馬村が合併し、新弘前市が誕生しました。人口約19万人、「自然と共に生きる豊かな産業・文化都市」を新市の目標に定め、目指す将来像として「人とふれあい、人が輝くまち」を第一に掲げています。この実現に寄与するため、センター職員が一丸となり、今後とも業務に取り組んでまいります。

平成18年度の事業ですが、合併により本予算の決定が6月になる見込であり、残念ながら確かなことはまだお知らせできません。ただ私としては、参画センター交流まつりはぜひ継続したいと考えています。またこの機会に、これまで実施した事業を一度検証し、その結果を踏まえて新市の事業を再構築する予定です。

市民の学習活動、交流活動等の場を提供すること
このことから、当センターが弘前市における男女共同参画施策の中心(センター)であることがお分かりいただけると思います。

女性の人材育成及び活動支援に関すること
子育てサポートシステムに関すること
男女共同参画社会形成に向けた意識づくりに関すること
男女共同参画に関する情報の収集、提供及び発信に関すること

弘前市民参画センター
所長 蒔苗 貴嗣

弘前市民参画センターとは 平成16年度 利用状況報告 さんかくネットとは

男女共同参画社会をめざすとともに、皆さんがさまざまな社会活動に主体的、積極的に参画していくための拠点施設です。男女共同参画に関する事業を行なうほか、情報発信、学習・交流の場を提供しています。

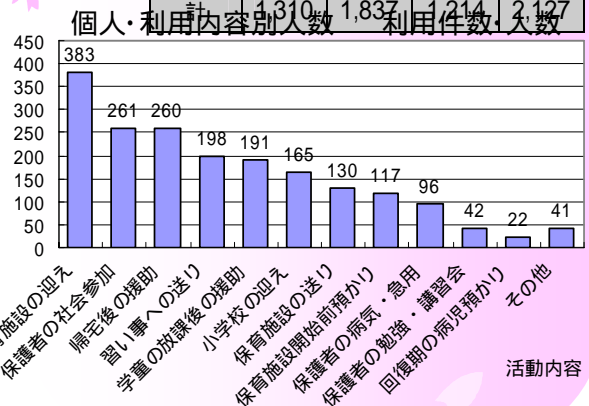
一時的に子どもを預かってほしい人(子育てサポーター)を登録し、子どもを預かってほしいという保護者の依頼に応じて参画センターが仲介するシステムです。



来館者	年度別	
	16年度	15年度
利用者数	12,867	14,295
活動室(有料)	12,867	14,295
ふれあいホール等(無料)	15,271	14,683
利用者計(小計)	28,138	28,978
見学者	88	143
市民参画センター利用者数	28,226	29,121

利用件数	16年度		15年度	
	件数	子どもの数	件数	子どもの数
個人	1,253	1,438	1,149	1,579
団体	57	399	65	548
個人・利用内容別人数	1,310	1,837	1,214	2,127

利用目的	公共団体		一般団体		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
会議	26	430	334	4,751	360	5,181
講習会・研修会・勉強会・講座	20	445	498	6,170	518	6,615
講演会・フォーラム	3	85	14	495	17	580
その他	3	205	30	286	33	491
合団体用ロッカー・レターケース(無料)	52	163	1,702	928	12,867	
団体用ロッカー(有料)	64		26			



(弘前市民参画センター利用団体紹介)

(ボランティア朗読お話しシャワー)

「絵本の魅力を伝えたい」

当朗読会は、NHKボランティア朗読講座の修了生(1期~3期まで)の有志で結成されております。

発足は平成15年の10月、会員は7名です。本を読む事の大好きな私達。絵本を読んであげたい、絵本を好きになって欲しい、社会に何か貢献したい、という思いを胸に、聞いてくれる「相手」を考慮し、内容を選択し、本を選び、20分~30分を集中して読む。本の持つ魅力を伝え、そして、その本の世界に遊び、自由に想像し夢を持って貰いたい。ましてや高齢者の方達には一瞬でも癒しになって欲しいなどなど願いは様々です。なお当会も活動して3年目、仲間の数人で別々に施設(2ヶ所)と保育所を月に1度訪問しております。仲間達の打合せや連絡と交流を持つために市民参画センターを利用させて頂き、正しい日本語ときれいな言葉で読んでいこうと仲間が意識し合い、今でも講習を受けて努力しています。

「さん、また来てねー!!」と、帰る後ろ姿に声を投げかけてくれる。その一言が何より嬉しく、さあ!!次回もがんばるぞと「力」が湧いて来る日々です。(長内 よう子)



次第に絵本の世界に夢中になっていく園児たち
(花園保育園)

桜の開花ニュースも聞かれるようになり、日本も広いなあと実感。我が家でも部屋の中で咲かせた桜が一足先に満開である。水の中に食紅を入れると花びらの色が変化すると聞き、早速実験してみた。赤、黄、緑の花びらをつけた桜は思ったよりきれいだ。桜に、「いたずらをしてゴメンネ」と言いながら楽しませてもらっている。

森

編集後記

本の紹介

著書名

『新・買ってはいけない2006』



商品を選ぶとき、安全なものを選び取る努力をしていますか？

著者 境野米子
渡辺雄二
発行 (株)金曜日

「食べもの」「飲み物」「化粧品」「シャンプー・ソープ」「殺虫剤」「雑貨」「サプリメント」「ダイエット」など、買ってはいけないものが、商品名入りでズラリ。1999年出版の「買ってはいけない」。2002年出版の「買ってはいけない part2」に続く第3弾として出版された本である。

CMや広告で馴染みのある商品、「これ、食べている」、「これも使っている」というものが掲載されていて、愕然としたものの、気を取り直してゆっくり読み進む。なぜ買ってはいけないのかがきちんと書かれており、取りあげた商品については、メーカーへの質問やアンケート、追跡調査までするらしい。

最初に「買ってはいけない」を出版した1999年の頃に比べると、消費者の暮らしへの意識、とりわけ食への意識には格段の変化がみられ、食への関心を見ると「安心・安全」に移ってきているという。

子どもを育てていた頃は、食品であれば産地や添加物、日用品であれば体や環境に優しいものにこだわり、少しでも納得のいくものを選んでいったような気がするのだが、最近はどうだろうと考えたときに、何か忘れ物をしていったような気持ちになった。

商品を選ぶとき、ついCMや広告で見知っているものに手を出してはいないか。価格だけの比較で安易に選んではいけないか。また、商品も多様化し、誇大広告や偽表示など、消費者として何をどう信じればいいのか分からなくなっている自分に気づいた。

それでは、「買ってはいけない」に登場しないものは問題がないのかというところでもないらしい。消費者が成分表示や注意事項を確認しながら、安全なものを選び取る努力をしないと、製造元を動かすことはできないのだろう。このシリーズで取りあげられたことで、製品を改良したり、リニューアルした例や誇大広告を見直した企業もあるとのこと。

どのような成分が、なぜ危険なのかが理解しやすく書かれていて、疑わしいものは食べない・使わないという「予防原則」の視点で取り組んでいるその姿勢が伝わってくる。全ての商品を遠ざけるということは困難でも、「この成分にはこのような危険があるかもしれないよ」ということを知ったうえで、自分の暮らしを考える必要はあるのかもしれない。

理想は世の中から「買ってはいけない」商品がなくなることだという。今後はこの「2006」を皮切りに一年ごとの発刊をめざすとのこと。「CMや広告にダメされないために!」と黒い帯に白抜きで書かれた字が心に残るそんな一冊である。

by Komori

弘前市民参画センター 編集 メディア部会

〒036-8355

弘前市元寺町1-13

Tel 0172-31-2500 Fax 0172-36-1822

開館時間 9:00~22:00

休館日 12月28日~1月3日